

鏡石町地域おこし協力隊

鏡石町 小柳 拓未さん・比呂さん夫妻



スイーツや料理でまちづくりを。結婚と同時に協力隊に入隊し二人三脚で活躍！

おいしい“食”で町おこしを！

商品開発・PR

佐賀県唐津市出身の拓未さんと須賀川市出身の比呂さんが出会ったのは東京浅草のイタリアンビストロ。22歳の若さで副店長を務めていた料理人の拓未さんと大学生のアルバイトだった比呂さんは結婚を前提に交際する中で人生を見つめ直しました。「仕事が多忙で夜中に帰宅することが多かった。自然の中でゆとり暮らしたいと思うようになりました。妻の美家の近くなから将来子どもが生まれた時に安心して子育てができると思いましたが拓未さん。そんな時に鏡石町の協力隊が。食。をプロデュースし地域を活性化する人材を募集していることを知り、思い切って二人で応募しました」と笑う比呂さん。



長野県出身、山梨で農業を学び三春町で新規就農。自分らしく楽しく農業と向き合う

三春町

宮島 清人さん

長野県出身



いちご農家 (farm.舞木)

理想のイチゴをつくりたい



真っ赤なイチゴを見つめる穏やかな笑顔。長野県出身の宮島さんは三春町下舞木で2020年からイチゴ栽培に取り組みしています。移住前は山梨県の農業ベンチャーでイチゴ栽培の立ち上げに参画し、3年にわたって栽培技術などを学んできました。「農業で独立するために場所を算してたどり着いたのが三春町の親戚の農地でした。地元の方はよそ者扱いせずに入れてくれて先輩農家の方のつながりもできました。栽培に関して自分の裁量で全て自由に決めることができるのが良かったです」

長期的な視野で計画的に気候を生かした栽培を

理想のイチゴを目指し、5年後を見据えて長期的な視野で計画的に栽培を進めている宮島さん。「中山間地域での農業は初めてでしたが、日照時間が予想以上に少なかつたので肥料や栽培方法をいろいろ試しています。なるべく農薬を使わずに、酸味と甘みのバランスの良い誰にでも喜ばれるおいしいイチゴを目指しています。ハウス内の棚を手作りするなど投資を抑えることも重要なポイントと語り、工夫されています。これからは最適な栽培方法を極めながら新たな条件の良い土地を見つけることも考え、農業を業としていきたいと思います」と未来に向かって進化を続けています。

地域貢献したい

料理人の経験を生かし企業や学校とコラボ。地元食材を使った新商品の開発からPRまで自分たちの手で

地元の岩瀬農業高校生が育てた鶏の卵を使用して共同開発したオリジナルスイーツ「愛情たっぷりりんごが話題になり、約2,500個販売。入荷を楽しみに待つ方も多いそう。また、特産のいちごを使ったパンナコッタや生キャラメルなどに加え、地元食材を使った玉手箱のようなお弁当も開発。2カ月に1度開催する料理教室も毎回大盛況です」

「今は町内産の菜種油を使った、食べるラー油の開発に取り組んでいます。作った料理やスイーツの感想を直接聞けるので励みになります」と拓未さん。比呂さんは構成から4コマ漫画まで一人で製作する広報誌で活動を報告。さらに、料理工程を動画撮影し、SNSで発信しています。

「自然と人の温かさにもふれながらゆつたり生活できるので心のゆとりができました」と微笑む拓未さん。二人で鳥見山公園を走ったり、県内を散策しておいしいものを食べてのんびり過ごせるのも幸せです」と比呂さん。今後の二人の活躍から目が離せません。

私たちが移住しました!

地域貢献したい

結婚

だから移住

田舎暮らし

仕事・Uターン

理学療法士の資格を生かして町内の皆さんの健康のために体操教室を開催

小野町 山口 愛さん

静岡県出身



理学療法士

人の温かさ、美しい星空に感動!

健康づくりで町を元気に!



静岡県浜松市の病院や老人介護施設で理学療法士として働いていた山口さん。「生まれてからずっと浜松で暮らしていたので一度は県外に出てみたいと思っていました。理学療法士の資格を生かして地域の皆さんのために活動できる地域おこし協力隊を希望するなかで出会ったのが小野町。移住への不安よりもワクワク感のほうが大きかったです」

現在、町内19か所で月に1回から週に1回開催されているサロンに出向き、体操教室を行っています。「農業に従事していた方は姿勢や膝を悪くしている方も多いため、日常生活で気を付けてほしいことを伝えて個別相談にも応じています。体が楽になった、ありがとう、など言ってもらえるのがうれしです」

憧れの古民家をリノベーションし、子どもも楽しめるアートイベントや地域交流の拠点に



「一歩近づきました。憧れの古民家暮らしももうすぐ始まります」と笑顔があふれます。玉川村出身の鈴木さんは高校卒業後、美術系の学校に進み、その後神奈川県で働いていたアート展示などにも参加して来ました。「関東圏では玉川村を知らない人が多いことがわかり、生まれ育った故郷をもっと広めたいと思い、地域おこし協力隊に応募。2020年1月にUターンして入隊しました」。当初はコロナ禍で思うように活動できませんでしたが、徐々に活動範囲も広がり、地元のことをより知ることでできたそう。「村内外に友達や知り合いが増えてつながりができたので、毎日とても楽しく、充実しています」

玉川村 鈴木 愛子さん

玉川村出身



イベント企画・運営

アートで自由に表現したい!

自作のイラストを添えた手作りの新聞を発行。SNSも活用しながら玉川村の最新情報と魅力を広く発信したい



現在、すぐまプラザ交流センターを活動拠点にイベントの企画・運営、情報発信を行う鈴木さん。「ほぼ2カ月に1回発行する新聞とSNSを通じて村内のお店の紹介やイベント情報などを発信しています。企画するイベントは、得意のアート分野を軸しむワークショップを開催することが多いそう。「イベントに参加した子どもたちが自由に楽しんでいる様子を見るのはとてもうれしです。今後は、ZASSOUを拠点にアート教室や作品展示などのアトスペースとしての利用と地域交流を楽しむ場所として活用していきたい」と力強く展望を語る鈴木さん。

地域活動の会場には豊かな自然を満喫し、趣味の山菜採りを楽しむ一面も。旬の味覚を贅沢に味わえるのも大きな魅力です。「祖母の影響で好きになった山菜採りを家族と一緒に楽しんでいます。新鮮な山菜の二つに楽しんでいます。まずは一度玉川村の自然に触れて、アートイベントに参加してみませんか?」

町の中心部に流れる川の美しい風景が好き



町の中心部に北須川、今出川の2本の川が流れる石川町は春には両岸の桜並木の絶景が楽しめます。川が流れている風景が好きで四季折々の美しさに感動しています。移住を考えている方は、まず気になる場所を訪れて雰囲気を感じてみては。日々の発見や出会いを大切に。日々の発見や町の魅力のつぼは、人の温かさ。と言います。「観光物産協会の仕事を通してさまざまな業種や世代の方と交流できることがうれしく、やりがいを感じています。今後は石川町の魅力をたくさんの方へ伝えていきたいです」とさらなる躍進を誓います。

町が誇る観光物産を広めたい

石川町 遠藤 真佑子さん

会津若松市出身



石川町企画商工課

仕事・Uターン

理学療法士の資格を生かして町内の皆さんの健康のために体操教室を開催

石川町地域おこし協力隊

「町の方が声を掛けてくれたり、採れたての野菜をいただいたり、地域のつながりや人の温かさを感じます。夏井千本桜やヤマツツジなど自然も豊かで四季折々の風景も素敵です。星空もとてもきれいで、遊びに来た両親も、空が近く感じるね」と喜んでいました。と微笑む山口さん。役場の皆さんが親身になってくれるのも心強いです。現在、体操教室など健康福祉課の業務を行うほか、週1回は町内の総合病院で理学療法士としてリハビリを担当しています。元気に語り、町民の健康を支えています。